

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝日銀金融政策決定会合やF O M Cに注目

[10月30日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)			10月23日～10月27日		
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	149.94	150.78(26)	149.32(24)	150.24	+0.38
ユーロ・ドル	1.0591	1.0694(24)	1.0524(26)	1.0557	-0.0037
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値		前週末比		
日経平均株価	30,991.69	-267.67	日本10年債利回り	0.882	+0.040
ダウ平均株価	32,784.30	-342.98	米10年債利回り	4.845	-0.069
=====					

<来週の主要経済統計等>

30日 豪9月小売売上高

スイス10月K O F 先行指数

独10月消費者物価指数速報値

31日 日本9月雇用統計、日本9月有効求人倍率

日本9月小売業販売額、日本9月鉱工業生産指数

中国10月製造業P M I、中国10月サービス業P M I

日銀金融政策決定会合(30～31日)・金融政策発表

植田日銀総裁記者会見

スイス9月小売売上高

独第3四半期G D P速報値

ユーロ圏第3四半期G D P速報値

ユーロ圏10月消費者物価指数速報値

米第3四半期雇用コスト指数

米8月住宅価格指数、米8月S & Pケースシャー住宅価格指数

米10月シカゴ購買部協会景気指数

米10月消費者信頼感指数

1日 NZ第3四半期雇用統計

豪9月住宅建設許可件数

中国10月財新製造業P M I

米10月A D P雇用統計

米製造業P M I 確報値

米10月I S M製造業景況指数、米9月建設支出

米雇用動態調査(J O L T S 求人件数)

米連邦公開市場委員会(F O M C、31日～1日) 政策金利

パウエルF R B 議長記者会見

2日 豪9月貿易収支

スイス10月消費者物価指数

独10月雇用統計

独10月製造業P M I 確報値

ユーロ圏10月製造業P M I 確報値

英中銀(B O E) 政策金利

米新規失業保険申請件数、米第3四半期非農業部門労働生産性指数

米9月製造業受注

3日 中国10月財新サービス業P M I

独9月貿易収支

英10月サービス業P M I 確報値

ユーロ圏 9 月雇用統計
カナダ 10 月雇用統計
米 10 月雇用統計
米 10 月サービス業 PMI 確報値
米 10 月 ISM 非製造業景況指数

【前回のレビュー】ドル円は堅調な米経済指標や米長期金利の上昇などを背景に底堅い動きを見せている。ドル円は 150 円超では日本の金融当局によるドル売り円買い介入も警戒されることで、149 円台後半では上値を抑えられやすくなっている。ドル円は 149 円割れでは底固く推移しており、150 円接近では上値が重い展開が見込まれ、高値圏でレンジ相場が続くとした。

【ドル円は 150 円を上抜く】

ドル円は 150 円手前での推移が続いたあと、25 日に 150 円を突破した。それまでは政府・日銀によるドル売り円買い介入への警戒感などから 150 円接近では上値を抑えられやすい展開が続いていた。

25 日には堅調な米経済指標を受けて、米長期金利が上昇したことで、ドル買いの動きからドル円は 150 円を突破して 150.32 近辺まで上昇した。150 円の節目をしっかりと抜けてきたことで、26 日には 150.78 前後までさらに上値を伸ばした。ただ、その後は介入警戒感などから急落して、150 円を割り込んで 149.96 近辺まで下落した。すぐに 150 円を回復すると、150 円台前半から半ばでの推移を見せた。

10 月 30 日の週は重要イベントが目白押しで、中央銀行の金融政策会合や米雇用統計などの注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。10 月 30～31 日の日銀金融政策決定会合では、金融政策そのものに変更はない見通し。ただ、「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）で来年度のコア CPI を +1.9% から +2.0% 以上に引き上げるとの観測が出ている。今回はイールドカーブコントロール（YCC）の許容変動幅に変更はないとみられる。

10 月 31 日～11 月 1 日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、政策金利は据え置きの見通し。CME FED ウォッチでは、99% 以上の確率で据え置きとなっている。声明やパウエル議長の記者会見が注目される。米長期金利が上昇傾向にあることで、今回の FOMC での利上げの必要性が低下していることも、政策金利据え置き観測の一因となっている。

これまでの累積的な利上げの結果、米国のインフレ率は徐々に鈍化傾向を示している。ただ、堅調な経済状況が続いて、インフレが再加速した場合には再び利上げの動くとの考えを示してくるとみられる。また、市場にある早期の利下げ期待をけん制して、可能性もある。

26 日に発表された米第 3 四半期 GDP 速報値では、前期比年率換算 +4.9% となり、市場予想の +4.5% を上回った。また、同時刻に発表された米 9 月耐久財受注は前月比 +4.7% と、市場予想の +1.2% を大きく上回った。10 月 30 日の週に発表される米雇用統計をはじめとする主要な経済指標は堅調な結果になるものが多いと見込まれる。こうした中、ドルは底堅い流れが続くとみられる。

円は日銀による政策修正への期待感が一部にあるものの、金融政策は現状維持との見方から、大きく円買いに傾きにくいとみられる。ドル円は介入警戒感が上値を抑える可能性があるものの、底堅い推移を続けて、緩やかに上値を追う展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、148.50～152.00 円。

日米の経済指標やイベントとしては、31 日に日本 9 月雇用統計、日本 9 月有効求人倍率、日本 9 月小売業販売額、日本 9 月鉱工業生産指数、日銀金融政策決定会合（30～31 日）・金融政策発表、植田日銀総裁記者会見、米第 3 四半期雇用コスト指数、米 8 月住宅価格指数、米 8 月 S & P ケースシラー住宅価格指数、米 10 月シカゴ購買部協会景気指数、米 10 月消費者信頼感指数、1 日に米 10 月 ADP 雇用統計、米製造業 P

MI 確報値、米10月ISM製造業景況指数、米9月建設支出、米雇用動態調査（JOLT S求人件数）、米連邦公開市場委員会（FOMC、31日～1日）政策金利、パウエルFRB議長記者会見、2日に米新規失業保険申請件数、米第3四半期非農業部門労働生産性指数、米9月製造業受注、3日に米10月雇用統計、米10月サービス業PMI 確報値、米10月ISM非製造業景況指数などがある。

【ECB理事会では金融政策は現状維持】

ユーロドルは24日に1.0700ドル近くまで上昇したものの、その後は大きく値を崩した。この日発表されたドイツの10月サービス業PMI速報値、ユーロ圏の10月製造業・サービス業PMI速報値などがさえない結果となったことで、ユーロ売りの動きにつながった。25日には米長期金利の上昇がユーロ売りドル買いにつながり、1.0560台まで下落した。26日には強い米GDPを受けて、1.0520台まで下落した。売り一巡後は1.05台半ばで推移している。

26日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、政策金利に変更はなかった。声明では、「インフレは依然として高すぎる状態が長く続くと予想している」「大半の基調的なインフレ指標は緩和を続けている」「金利水準が十分に長い期間維持されれば、インフレ率がタイムリーに2%の中期目標に戻ることを確実にするために大きく貢献する」としている。ラガルド総裁は、「引き締め効果は今年10～12月、来年1～3月に現れる」「エネルギー価格や食品価格の上昇がインフレ上方リスク」「域内の物価圧力は依然強い」などと述べた。

ユーロドルは1.0700ドル手前から下落してきたものの、1.0500接近では底堅い動きを見せている。上値は重いが下値も堅いとみられ、目先はレンジ相場が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0450～1.0750ドル。

ポンドドルは24日に1.2280台まで上昇したものの、その後はユーロドルの下げに追随して下落している。また、米債利回りの上昇がポンド売りドル買いにつながっている。11月2日の英金融政策委員会（MPC）では、政策金利は据え置きとの見方が根強い。

18日発表の英9月消費者物価指数は前年比+6.7%で前回と同水準ながら、市場予想の+6.6%を上回った。コア前年比は+6.1%と市場予想と同じになるなどいずれも高水準となった。利上げの継続が景気の下押し圧力につながり、ポンド売りの動きにつながっている。前回のMPCでは5対4と僅差で据え置きが決定した。据え置きの場合はこの比率に変化があるかが注目される。据え置きの票数が増えるとポンド売りになり、利上げの票数が増えるとポンド買いにつながろう。こうした中、ポンドドルは上値がやや重いものの、レンジ相場が見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2000～1.2300ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日に豪9月小売売上高、スイス10月KOF先行指数、独10月消費者物価指数速報値、31日に中国10月製造業PMI、中国10月サービス業PMI、スイス9月小売売上高、独第3四半期GDP速報値、ユーロ圏第3四半期GDP速報値、ユーロ圏10月消費者物価指数速報値、1日にNZ第3四半期雇用統計、豪9月住宅建設許可件数、中国10月財新製造業PMI、2日に豪9月貿易収支、スイス10月消費者物価指数、独10月雇用統計、英中銀（BOE）政策金利、3日に中国10月財新サービス業PMI、独9月貿易収支、英10月サービス業PMI 確報値、ユーロ圏9月雇用統計、カナダ10月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく

転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。